

学術講演会一覧(1987年度以降)

開催日	講演者		演題
	名前	所属(当時)	
1987年5月27日	杉山善朝	札幌医科大学	老人の生きがい
1987年11月5日	春木 豊	早稲田大学	行動とそのコントロール
1988年6月27日	藤岡喜愛	甲南大学	オーストラリアにおける古代の夢 —精神人類学の立場から—
1988年11月11日	藤田 統	筑波大学	行動と遺伝
1989年5月16日	Giovanni B. Flores d'Acais	ライデン大学	Semantic Activation in Word Recognition (語の認知における意味の役割)
1989年11月8日	成定康平	松下電機産業株式会社照明研究所	見え方と照明
1990年1月11日	荻原隆二	国立精神神経センター	医学と人間
1990年10月11日	大塚博保	科学警察研究所	性格と運転 (協賛: 教学部学生課)
1991年1月22日	平井 久	上智大学	バイオフィードバックの基礎と臨床
1991年10月9日	上里一郎	広島大学	行動様式のミクロのアプローチ—脳と免疫—
1991年12月4日	丸山欣哉	東北大学	見えと反応—基礎から応用まで—
1992年5月27日	寺岡 隆	北海道大学	社会動機の国際比較—ゲーム論的研究—
1992年10月14日	町沢静夫	国立精神神経センター	ボーダーラインの心の病理
1993年9月29日	生和秀敏	広島大学	時間不安について
1993年11月11日	辻 敬一郎	名古屋大学	ロングショットでヒトをみる—比較心理学の現状—
1994年7月6日	宮森孝史	専修大学	神経心理学とリハビリテーション
1994年9月9日	Derek E. Blackman	ウェールズ大学	心理学における行動分析の現状と課題 (特別学術講演会)
1994年11月16日	小林重順	日本カラーデザイン研究所	配色の心理
1995年10月25日	ブラッドフォード・H・キャリス	トロント大学	潜在記憶と脳 (情報科学研究科認知科学専攻共催)
1995年11月22日	セップ・リンハルト	ウィーン大学	日本文化の遊びの性格
1996年7月4日	秋田宗平	日本福祉大学	デザインと色彩心理学
1996年10月9日	多田治夫	放送大学客員教授 金沢大学名誉教授	カウンセラーになる道
1997年6月25日	岡本栄一	川村学園女子大学	感性に関する情報処理—モナリザ模写の評定—
1997年10月22日	浅野俊夫	愛知大学	霊長類の道具使用と言語
1998年6月25日	児玉典子	滋賀大学	父親マウスと養育行動のメカニズム
1998年11月11日	松本良枝	愛光女子学園	最近の少年非行の特徴について —犯罪心理学の立場から—
1999年6月9日	藤永 保	お茶の水女子大学 名誉教授	発達心理学とは何か —そのたどってきた道とこれからの発展—
2001年1月23日	山上敏子	国立肥前療養所	臨床手段としての行動療法
2001年3月8日	金子寛彦	東京工業大学	立体視における垂直視差の役割
2003年2月27日	山田修子	名古屋市立松栄小学校	適応指導教室の運営改善とその効果
2003年9月30日	榎本博明	名城大学	自己心理学—自己物語の研究—
2003年11月7日	長谷川寿一	東京大学	進化心理学の展開
2003年11月13日	栗原幸江	静岡がんセンター	ターミナル・ケア病棟の人々
2004年10月6日	野口 薫	日本大学	心理学と芸術
2004年11月5日	やまだようこ	京都大学	ライフサイクルと生死の語り
2004年11月6日	十一元三	京都大学	高機能広汎性発達障害の特徴と地域における診断の差
2005年9月21日	山田兼尚	国立教育政策研究所	切れる子供達
2005年10月27日	板倉昭二	京都大学	心の発見—メンタライジングの発達—
2005年11月30日	鯨岡 峻	京都大学	質的研究を巡って —エピソード記述とその周辺—
2006年10月16日	塘 利枝子	同志社大学	異文化に生きる子ども —文化によって異なる「いい子」「いい親」—
2006年11月22日	真栄城輝明	大和内観研修所	心理療法としての内観

開催日	講演者		演題
	名前	所属(当時)	
2007年7月4日	大竹礼三	米国音楽療法協会 認定音楽療法士 ノードフ・ロビンズ 認定音楽療法士	創造的音楽療法
2007年11月28日	酒井一博	(財)労働科学研究所	人間工学とKAIZEN(改善)
2008年10月22日	西山 啓	広島大学名誉教授	交通心理学と交通心理士
2008年12月1日	青木紀久代	お茶の水女子大学	発達臨床心理学の諸問題 —保育をめぐる発達援助—
2009年10月5日	増井起代子	東京通信病院	「うつ病」と診断されたクライアントへの心理的援助 —精神科心理相談室から見てきたもの—
2009年11月9日	若原克文	愛知県警察本部刑事 部科学捜査研究所	心理学的見地から見た文書鑑定の現状
2010年7月15日	小林 實	財団法人国際交通安全 学会顧問	交通と安全文化
2010年12月1日	森岡正芳	神戸大学	青年期の発達臨床を考える
2011年5月25日	倉光 修	東京大学	心理療法の個性的統合
2011年10月26日	加藤隆康	グッドライフデザイン	企業の安全衛生管理における心理技術とは 視空間ワーキングメモリ・モデルの発展
2012年7月5日	ゲリー クイーン	セントアンドリュース大 学	Developing the model of visuo-spatial working memory
2012年10月15日	西本武彦	早稲田大学 名誉教授	日常記憶
2013年6月24日	下條信輔	カリフォルニア工科大 学	多感覚統合、感覚代行と脳の可塑性
2014年1月21日	津田 彰	久留米大学	ストレスと健康支援 —集団対象研究と実験科学の統合—
2014年6月16日	渡辺 茂	慶應義塾大学 名誉教授	人間らしさの起源 —比較認知科学のアプローチ—
2015年2月2日	仲 真紀子	北海道大学	子どもの証言と司法面接
2015年10月19日	東山篤規	立命館大学	体性感覚から見えてくる世界
2015年12月16日	マサミ タカハシ	イリノイ州立 ノースイースタン大学	オトナと加齢の心理学 —高齢者の叡智・スピリチュアリティ・戦争体験—
2016年6月27日	岡ノ谷一夫	東京大学	言語と感情の起源 —人間コミュニケーションの特異性—
2017年1月23日	竹内龍人	日本女子大学	視覚の心理学とその応用
2018年1月15日	三浦麻子	関西学院大学	SNSから社会の心を読む —「ビックデータ」の心理学—
2018年10月15日	山口裕幸	九州大学	チーム・マネジメントの社会心理学 —健全でやる気に満ちたチーム作りを目指して—
2018年12月10日	神谷之康	京都大学	脳内イメージ解読技術
2019年1月11日	石井敬子	名古屋大学	感情情報の認識における文化の影響 —文化神経科学によるアプローチ—
2019年12月17日	イーファン リン	Taipei Medical University	自閉症の人々に関する心理学的研究
2020年1月20日	江崎 貴裕	国立研究開発法人 科学技術振興機構	脳機能画像データの多次元時系列解析
2020年10月19日	安藤 英由樹	大阪芸術大学	メディアアートと心理学:無意識に着目した表現技 術
2021年5月31日	木原 健	国立研究開発法人 産業技術総合研究所	心理学と自動運転
2021年6月21日	古村 健	独立行政法人 国立 病院機構 東尾張病 院	統合失調症への認知行動的アプローチ
2022年1月17日	新美 浩二	株式会社LIXIL	住宅環境のユニバーサルデザイン
2022年7月25日	Hao Tam Ho	中京大学 / Ecole normale supérieure	Decision Bias and Alpha Oscillation
2022年10月31日	Jean-Michel Hupé	University of Toulouse / CNRS	Psychology at the age of the Anthropocene. Why the knowledge of ecological disasters does not lead to action?

開催日	講演者		演題
	名前	所属(当時)	
2023年1月23日	磯村 朋子	名古屋大学	内受容感覚から考える身体と脳のコミュニケーション
2023年6月17日	家崎 哲	府中刑務所 調査専門官	バウムテスト3枚法の理論と実践 ― 矯正臨床の現場から
2023年11月6日	石津 智大	関西大学	悲劇芸術の仮想の悲しみ
2024年5月27日	Carolin Demuth	Aalborg University	心理学における質的研究の最新動向
2024年7月8日	澤井 大樹	株式会社アイデアラボ	「じゃないほう」の心理学
2024年9月25日	榊原 雅人	愛知学院大学	心拍変動バイオフィードバックーこころを「見える化」するストレスマネジメントー

※1997年度までは30周年記念号より転載。1998年度以降は「データで見る中京大学」より転載。ただし、一部に誤りがあったため可能な限り修正した。